



Java アプリケーション操作 シナリオ作成マニュアル

NTTアドバンステクノロジー株式会社

目次

1.	はじめに	1
1.1.	商標について	1
1.2.	本書に関する注意	1
1.3.	動作対象	2
1.3.1.	Java Access Bridge の有効化	2
1.3.2.	Java Access Bridge の無効化	5
1.3.3.	Java アプリケーション実装方式による操作可否	7
1.4.	制限事項	9
2.	JPath の取得手順	10
2.1.	JPath 取得ツール起動	10
2.2.	JPath 取得ツール画面	11
2.3.	操作要素の指定	12
2.4.	JPath のコピー	14
2.5.	JPath の貼り付け	15
2.6.	JPath のダンプファイル出力	16
2.7.	JPath 取得エラー	17
3.	シナリオ作成手順	18
3.1.	JPath の取得	18
3.2.	シナリオの作成	18
4.	ライブラリ・プロパティの一覧	22
4.1.	クリック	22
4.2.	チェックボックス・オン	23
4.3.	チェックボックス・オフ	26
4.4.	値の設定	28
4.5.	値の取得	29
4.6.	リスト選択	30
4.7.	マルチリストに関する操作	31
4.7.1.	マルチリスト選択	32
4.7.2.	マルチリスト選択解除	33
4.7.3.	マルチリスト全選択解除	34
4.8.	チェック状態取得	35
4.9.	有効無効状態取得	36
4.10.	リスト選択取得	37

4.11.	リスト一括取得	38
4.12.	タブ選択	39
4.13.	表の値取得	40

1. はじめに

本書では、WinActor を使って Java アプリケーションを操作するための、シナリオ作成手順について説明します。

1.1. 商標について

本書において以下に記載された名称、およびその他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。なお、本文中では ™、®、©マークは省略しています。

- WinActor は NTT アドバンステクノロジー株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows^{※1}、Microsoft Edge、Excel、VBScript^{※2} は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
※1 Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。
※2 VBScript の正式名称は、Microsoft Visual Basic Scripting Edition です。
- その他の記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

1.2. 本書に関する注意

- 本書および提供するソフトウェア類に付された著作権表示「Copyright © 2013-2026 NTT, Inc. & NTT ADVANCED TECHNOLOGY CORPORATION」の変更、削除をすることはできません。
本書の著作権は NTT 株式会社及び NTT アドバンステクノロジー株式会社に帰属します。
- 本書では、Windows の操作方法や機能を理解されていることを前提として説明しています。本書に記載されていないことについては、Microsoft が提供しているドキュメントなどをご覧ください。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

1.3. 動作対象

本書では、Java アプリケーションが以下の条件をすべて満たしていることを前提としています。

- ・ 操作対象とする Java アプリケーションが Oracle Java SE 上で動作していること
- ・ 操作対象とする Java アプリケーションが Java Accessibility API (※1) を実装していること
- ・ Java Access Bridge 2.0.2 以降がインストールされていること
(Java Access Bridge 2.0.2 は、Java SE Runtime Environment (JRE) Release 7 Update 6 (7u6)以降に同梱されています)
- ・ 32bit Windows 環境では WindowsAccessBridge.dll、64bit Windows 環境では WindowsAccessBridge-32.dll がインストールされており、インストール先のフォルダが環境変数 PATH に設定されていること
(WindowsAccessBridge.dll および WindowsAccessBridge-32.dll は、Java Access Bridge 2.0.2 に含まれるファイルです)
(WindowsAccessBridge-32.dll は、Java 9 以降には同梱されておられません)
- ・ Java Access Bridge が有効化されていること (有効化の手順は、1.1.1 Java Access Bridge の有効化を参照してください)

※1 Java SE Runtime Environment (JRE) Release 7 Update 6 (7u6) 以降に付属する Microsoft Windows システム上のユーザー補助テクノロジーから Java アプリケーションを可視にするための機能

1.3.1. Java Access Bridge の有効化

Java Access Bridge を有効にするために下記の手順を実施します。

注意 一部のアプリケーションで Java Access Bridge を有効にすると正常に動作しないことが報告されています。本マニュアルに記載している Java 関連ライブラリをご利用頂く前に、操作対象の Java アプリケーションが Java Access Bridge を有効にしても良いことを、開発元、もしくは、販売元等にご確認ください。Java Access Bridge の有効化によってアプリケーションが正常に動作しなくなった場合は、1.3.2 Java Access Bridge の無効化を実施してください。

- ① 「コントロール パネル」=>「コンピューターの簡単操作」=>「コンピューターの簡単操作センター」に移動します。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル



図 1-1 コンピューターの簡単操作センター

- ② 「コンピューターを画面なしで使用します」を選択します。

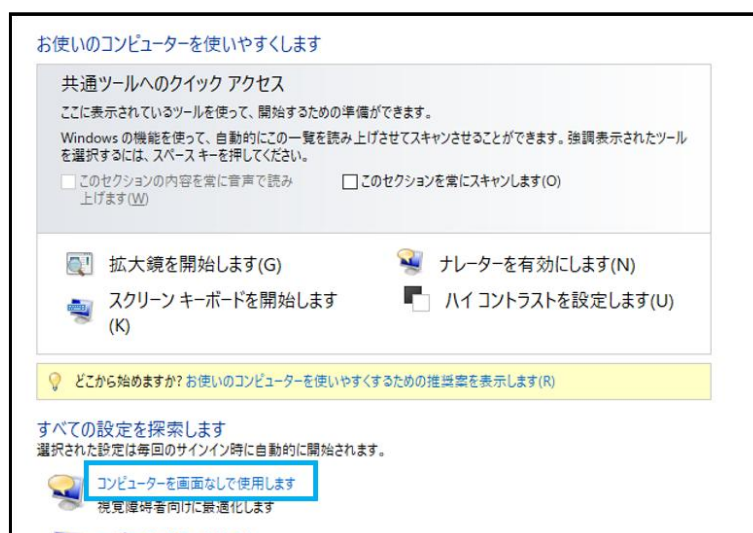


図 1-2 コンピューターを画面なしで使用します

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

- ③ 「他のインストールされたプログラム」セクションで、「Java Access Bridge を有効にする」チェックボックスを選択します（下にスクロールする必要がある場合があります）。

The screenshot shows the WinActor settings window. At the top, it says 'コンピュータを画面なしで使用します' (Use computer without screen) and '選択されたツールは毎回のサインイン時に自動的に開始されます。' (Selected tools start automatically at each sign-in). Below this, there are sections for 'テキストが音声で読み上げられるのを聞きます' (Listen to text being read aloud), '時間制限と明滅画像を調整します' (Adjust time limits and flashing images), and '関連項目' (Related items). The '他のインストールされたプログラム' (Other installed programs) section is highlighted, showing a list of installed programs. The 'Java Access Bridge' checkbox is checked and highlighted with a red box.

コンピュータを画面なしで使用します
選択されたツールは毎回のサインイン時に自動的に開始されます。

テキストが音声で読み上げられるのを聞きます

☐ ナレーターを有効にします(U)
ナレーターを使うと、画面上の文字が音声で読み上げられます。これにはスピーカーが必要です。

☐ オーディオの説明を有効にします(I)
映像で起こっていることを聞き取ります (利用可能な場合)。

[テキストの音声変換を設定します\(S\)](#)

時間制限と明滅画像を調整します

☐ 必要のないアニメーションは無効にします (可能な場合)(W)

Windows の通知ダイアログ ボックスの表示時間(X)
5 秒

関連項目

[オーディオ デバイスとサウンド テーマ\(A\)](#)
[支援技術についての詳細をオンラインで表示します](#)

他のインストールされたプログラム

これらのプログラムはこのコンピュータで利用可能です。一度に複数のプログラムを実行すると競合が発生する場合があります。

Javaアプリケーションに対するアシスティブ・テクノロジー・アクセスを提供するオラクル社のJava Access Bridge

☒ Java Access Bridgeを有効にする

図 1-3 Java Access Bridge を有効にする

- ④ 操作対象のアプリケーションが起動している場合は、操作対象のアプリケーションを再起動した後、WinActor で操作することができるようになります。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

1.3.2. Java Access Bridge の無効化

一部のアプリケーションで Java Access Bridge を有効にすると正常に動作しないことが報告されています。本手順は、Java Access Bridge の有効化によってアプリケーションが正常に動作しなくなった場合に実施する復旧手順です。

①「コントロール パネル」=>「コンピューターの簡単操作」=>「コンピューターの簡単操作センター」に移動します。



図 1-4 コンピューターの簡単操作センター

②「コンピューターを画面なしで使用します」を選択します。

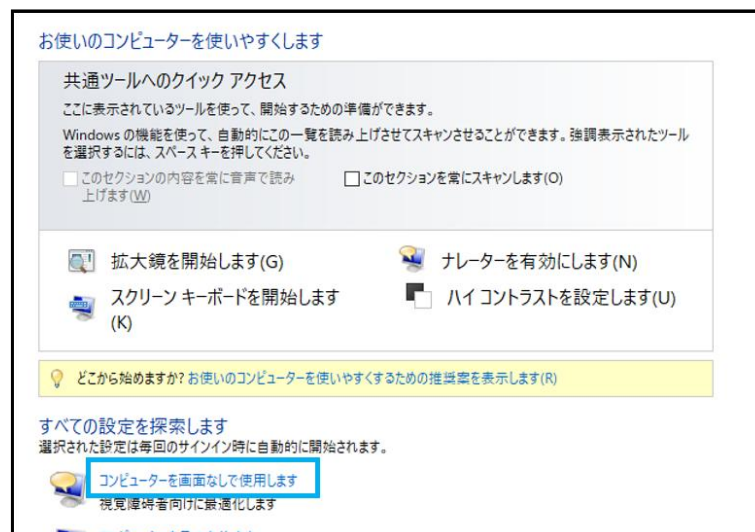


図 1-5 コンピューターを画面なしで使用します

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

- ③「他のインストールされたプログラム」セクションで、「Java Access Bridge を有効にする」のチェックを外します（下にスクロールする必要がある場合があります）。

コンピュータを画面なしで使用します
選択されたツールは毎回のサインイン時に自動的に開始されます。

テキストが音声で読み上げられるのを聞きます

☐ ナレーターを有効にします(U)
ナレーターを使うと、画面上の文字が音声で読み上げられます。これにはスピーカーが必要です。

☐ オーディオの説明を有効にします(I)
映像で起こっていることを聞き取ります (利用可能な場合)。

[テキストの音声変換を設定します\(S\)](#)

時間制限と明滅画像を調整します

☐ 必要のないアニメーションは無効にします (可能な場合)(W)

Windows の通知ダイアログ ボックスの表示時間(X)
5 秒

関連項目
[オーディオ デバイスとサウンドテーマ\(A\)](#)
[支援技術についての詳細をオンラインで表示します](#)

他のインストールされたプログラム
これらのプログラムはこのコンピュータで利用可能です。一度に複数のプログラムを実行すると競合が発生する場合があります。

Javaアプリケーションに対するアシシティブ・テクノロジー・アクセスを提供するオラクル社のJava Access Bridge
☒ Java Access Bridgeを有効にする

図 1-6 Java Access Bridge を無効にする

- ④.accessibility.properties をリネームします。

C:\¥Users¥【ユーザ名】に保存されている「.accessibility.properties」ファイルのファイル名を「.accessibility.properties.bak」に変更します。

- ⑤Windows のログオフを行います。

再度、Windows にログインを行った後、Java Access Bridge の有効化によって正常に動作しなくなったアプリケーションが正しく動作することをご確認ください。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

1.3.3. Java アプリケーション実装方式による操作可否

操作対象の Java アプリケーションの実装方式（Swing/AWT）に対する、
「24_Java 関連」以下で提供されるライブラリでの操作可否について下記に記載します。

表 1-1 Java アプリケーション実装方式による操作可否

No	ライブラリ名	Java アプリケーション実装方式による操作可否	
		Swing	AWT
1	チェック状態取得	○	○
2	有効無効状態取得	○	○
3	値の取得	○	△ ①Jpath:text からは取得可能 ②Jpath:label からは取得不可
4	リスト選択取得	○	△ ①Jpath:list に対して index 指定での取得可能。text 指定は取得不可 ②Jpath:combo box からは取得不可
5	リスト選択	○	△ ①Jpath:list に対して index 指定での取得可能。text 指定は取得不可 ②Jpath:combo box からは取得不可
6	マルチリスト選択解除	○	△ index 指定は取得可能 text 指定は取得不可
7	マルチリスト全選択解除	○	○
8	マルチリスト選択	○	△ index 指定は取得可能 text 指定は取得不可
9	タブ選択	○	— AWT にタブは存在しない
10	クリック	○	○
11	値の設定	○	×
12	表の値取得	○	— AWT に表は存在しない
13	リスト一括取得	○	×

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

14	チェックボックス・オン	○	○
15	チェックボックス・オフ	○	○

※【凡例】○：操作可能、△：一部の要素のみ操作可能、×：操作不可、－：対象外

※JavaApplet の実行については、Applet の実装方式（Swing/AWT）により上記に追従します。

※JavaFX や SWT 等の独自 JDK で実装している Java アプリケーションは動作対象外

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

1.4. 制限事項

Java アプリケーションを操作するにあたっての制限事項は次の通りです。

- シナリオを実行するときは、操作対象の Java アプリケーションがデスクトップ上に表示されている状態で実行するようにしてください。要素がデスクトップ外に表示された状態だとボタンクリックに失敗することがあります。
- 操作対象の Java アプリケーションの種類により、2.1 JPath ツール起動時に操作対象の Java アプリケーションを強制終了してしまう場合があります。Java アプリケーション上でデータを編集している場合は一度保存してから JPath ツールを起動してください。
- JPath の取得、およびシナリオを実行するときは、操作対象の Java アプリケーションと WinActor の起動方法「ユーザーアカウントの種類（管理者／一般ユーザー）」を統一する必要があります。

例えば、WinActor をユーザー権限で起動した場合、ユーザー権限で起動した Java アプリケーションしか操作できません。WinActor を管理者権限で起動した場合、管理者権限で起動した Java アプリケーションしか操作できません。

- MDI 型アプリケーションの子ウィンドウのコントロールボタン（最大化ボタン、最小化ボタン、閉じるボタン）を操作することはできません。

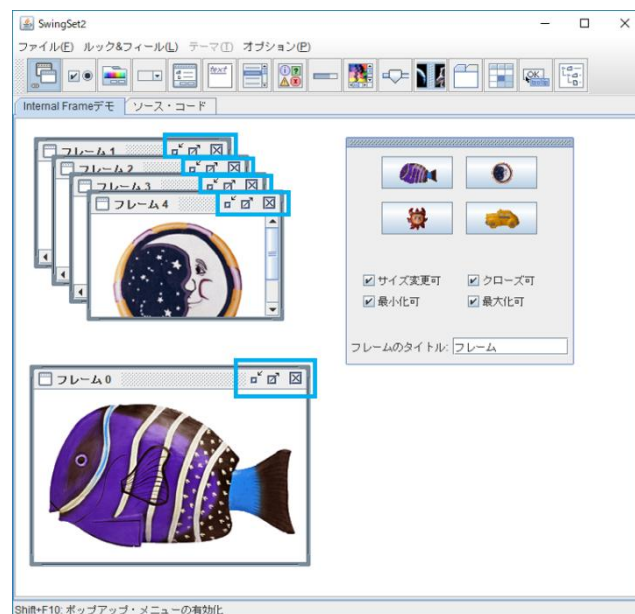


図 1-7 MDI 型アプリケーション

- Java アプリケーションの種類により、Java 関連ライブラリで操作できない場合があります。

2. JPath の取得手順

JPath とは、Java アプリケーションの操作に必要な要素の情報を可視化（XPath 相当）するオブジェクト情報で、操作対象の要素から遡って最上位階層の要素までの情報をパス形式で表現します。要素の情報は、Role 名、値、インデックスで構成されます。

WinActor で Java アプリケーションを操作するにあたり、操作対象の Java アプリケーションの要素（ボタンや入力欄）を JPath で指定する必要があります。

以下、JPath 取得ツールを用いて、JPath を取得する手順を説明します。

2.1. JPath 取得ツール起動

WinActor のメニューバーから「ツール」 => 「JPath 取得」を選択します。

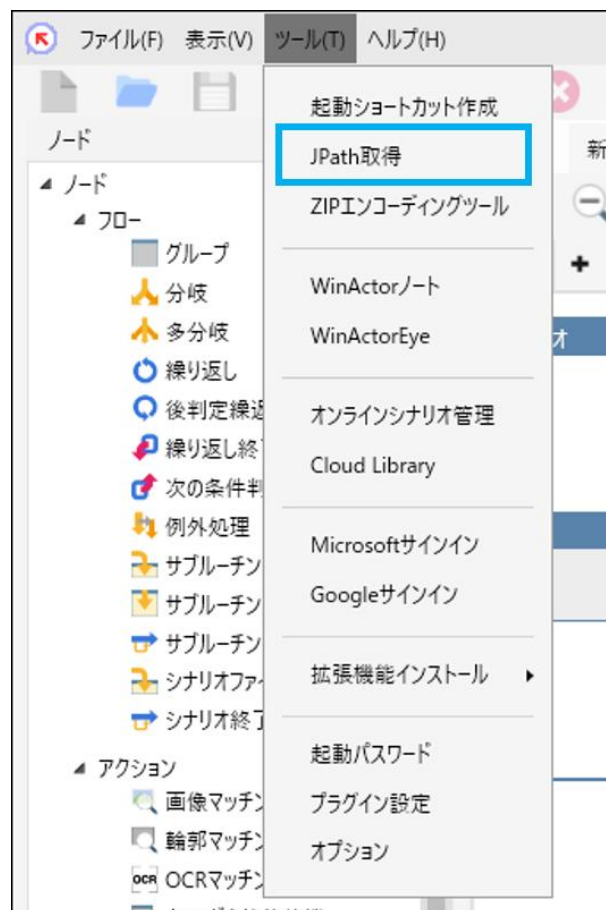


図 2-1 JPath 取得ツールの起動

2.2. JPath 取得ツール画面

JPath 取得ツール画面は WinActor とは独立して起動します。

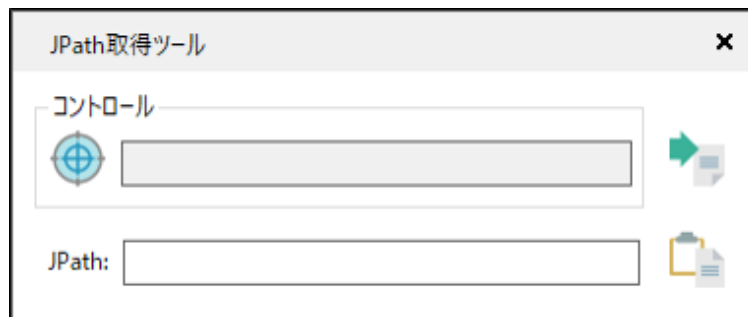


図 2-2 JPath 取得ツール画面

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

2.3. 操作要素の指定

JPath 取得ツール画面の左上部にある「アイコン」をクリックします。次に、操作対象の Java アプリケーション内で、操作したい要素上にマウスポインタを移動しクリックします。

要素の選択中は、マウスの形状が「」に変わります。

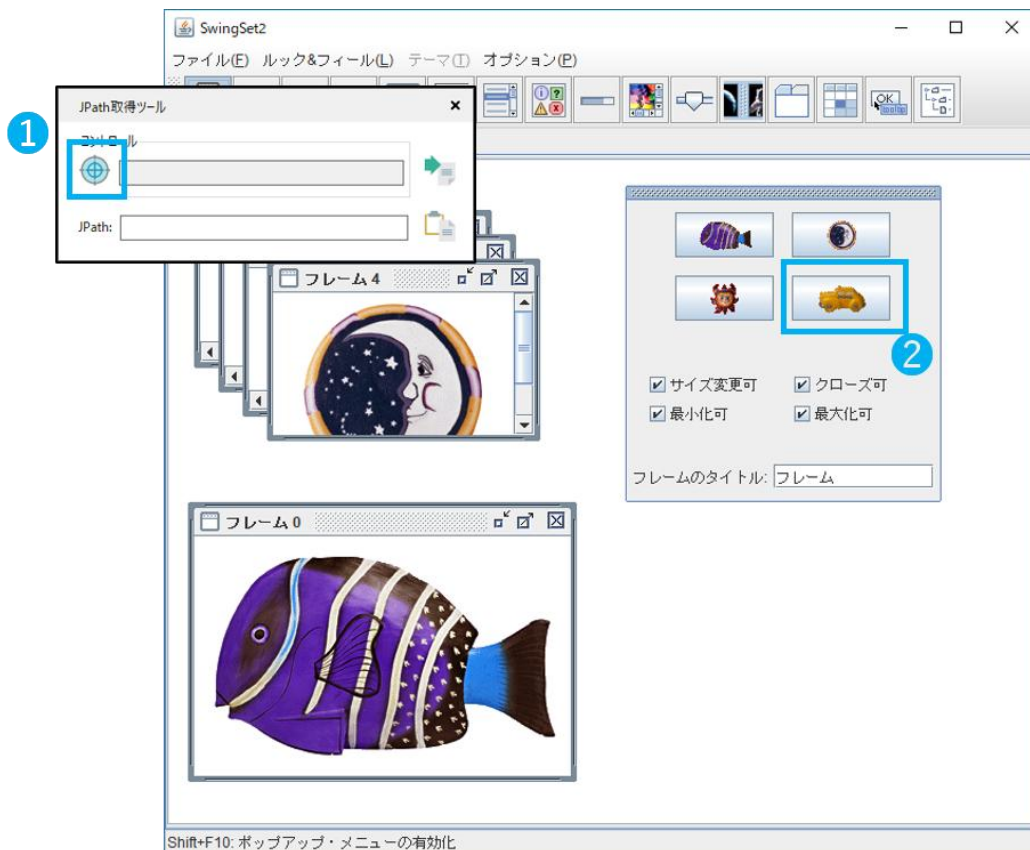


図 2-3 JPath 取得ツール画面（要素の選択）

JPath の取得には、Java アプリケーション側が Java Accessibility API を実装している必要があります。Java Accessibility API を実装していない Java アプリケーションの JPath を取得することはできません。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

JPath 取得ツール画面の「JPath:」に、Java アプリケーションの該当要素の JPath が表示されます。

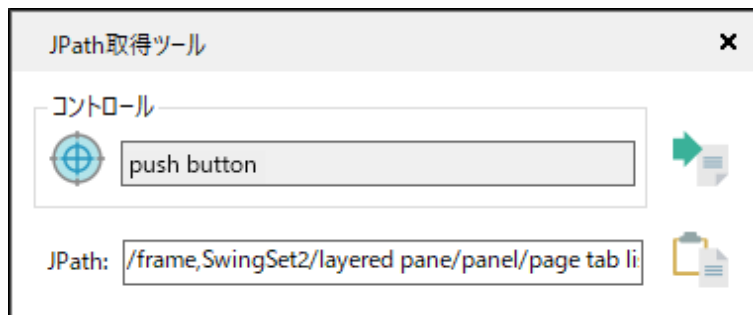


図 2-4 JPath 取得ツール画面（要素の選択後）

2.4. JPath のコピー

JPath 取得ツール画面の右下にある「 ボタン」をクリックします。

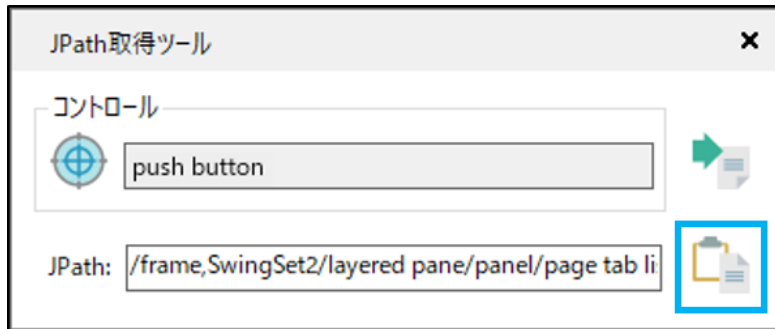


図 2-5 JPath 取得ツール画面 (JPath コピー操作)

クリップボードに該当要素の JPath がコピーされます。

JPath は、「/frame,SwingSet2/layered pane/panel/page tab list/,Internal Frame デモ/,内部フレームの作成/layered pane/,0/panel,,3/push button,,2」のような文字です。メモ帳などに貼り付けして確認することができます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

2.5. JPath の貼り付け

アクションのプロパティ画面にある JPath 入力欄に、「Ctrl+V」で、JPath の値を貼り付けます。

[更新] ボタンをクリックして設定します。

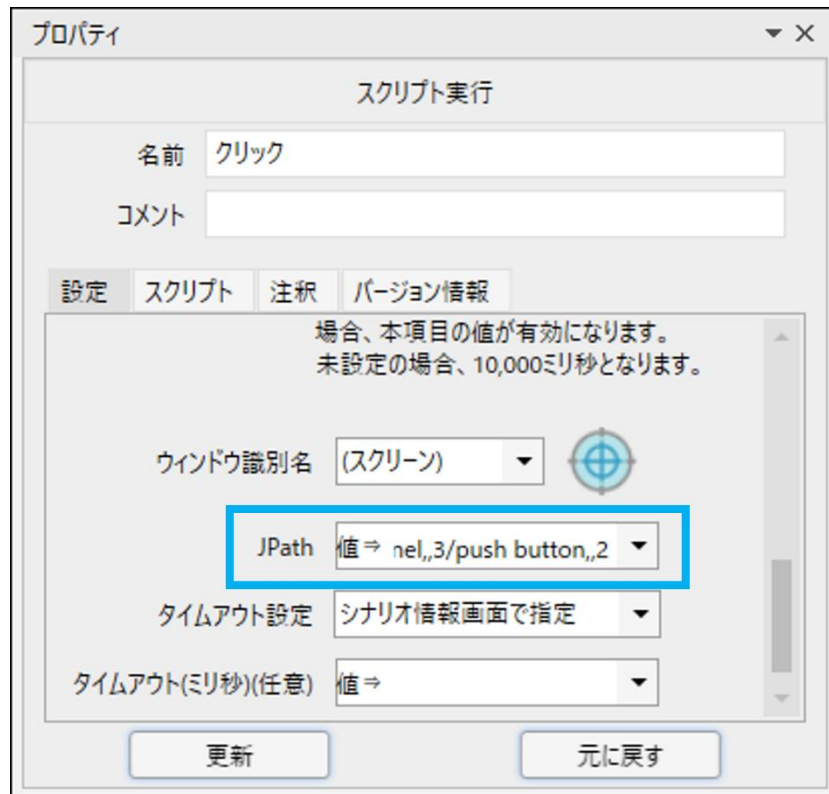


図 2-6 WinActor プロパティ画面への入力

2.6. JPath のダンプファイル出力

JPath 取得ツール画面の右上部にある「 ボタン」をクリックします。

「名前を付けて保存」画面が表示されますので、ファイル名に適当な名前を付けて保存します。

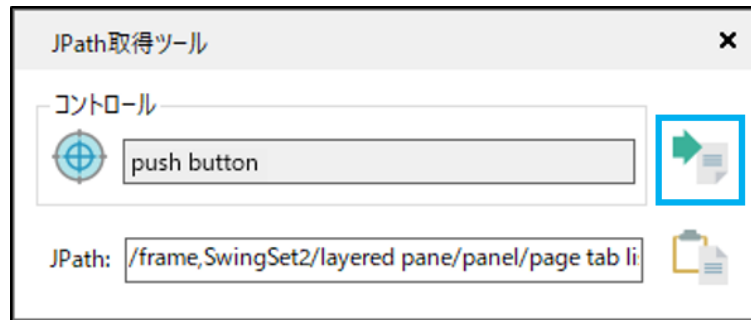


図 2-7 JPath 取得ツール画面 (JPath ダンプファイル出力操作)

該当する Java アプリケーションの全要素の JPath をファイルに出力します。
ダンプファイル出力する際は、Java アプリケーションが起動している必要があります。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

2.7. JPath 取得エラー

Java Access Bridge が有効になっていない、または操作対象の Java アプリケーションと WinActor の起動方法が異なるときに、「Java Access Bridge で操作を実行できないアプリケーションを選択しました。」というエラーが表示されます。

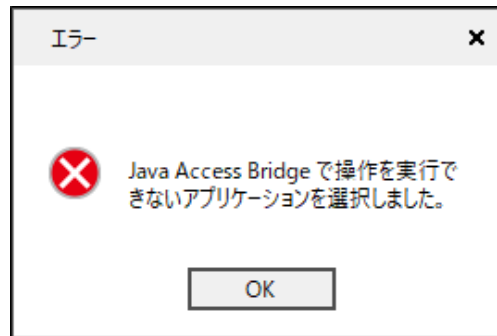


図 2-8 JPath 取得エラー

【原因】

Java Access Bridge が有効になっていない。

【対処方法】

Java Access Bridge を有効（有効化するための手順は 1.3.1Java Access Bridge の有効化を参照）にした後、ご利用ください。

【原因】

操作対象の Java アプリケーションと WinActor の起動方法「ユーザーアカウントの種類（管理者／一般ユーザー）」が異なる。

【対処方法】

操作対象の Java アプリケーションの起動方法をご確認のうえ、WinActor を同じ起動方法に合わせて起動してください。

例えば、Java アプリケーションをユーザー権限で起動している場合は、WinActor をユーザー権限で起動する必要があります。Java アプリケーションを管理者権限で起動している場合は、WinActor を管理者権限で起動する必要があります。

3. シナリオ作成手順

Java 関連ライブラリを使って Java アプリケーションを自動操作します。

「値の設定」ライブラリを例にとりて、Java アプリケーションを操作するシナリオの作成手順を説明します。

[手順]

3.1 JPath の取得

3.2 シナリオの作成

- ① ライブラリを配置
- ② ライブラリのプロパティ値を設定

3.1. JPath の取得

「2 JPath の取得手順」を参照し、操作対象の要素（今回の例では「値の設定」をおこなう要素）の JPath を取得します。

3.2. シナリオの作成

- ① パレットエリアの「ライブラリ」タブを選択し、「24_Java 関連」をダブルクリックして展開します。

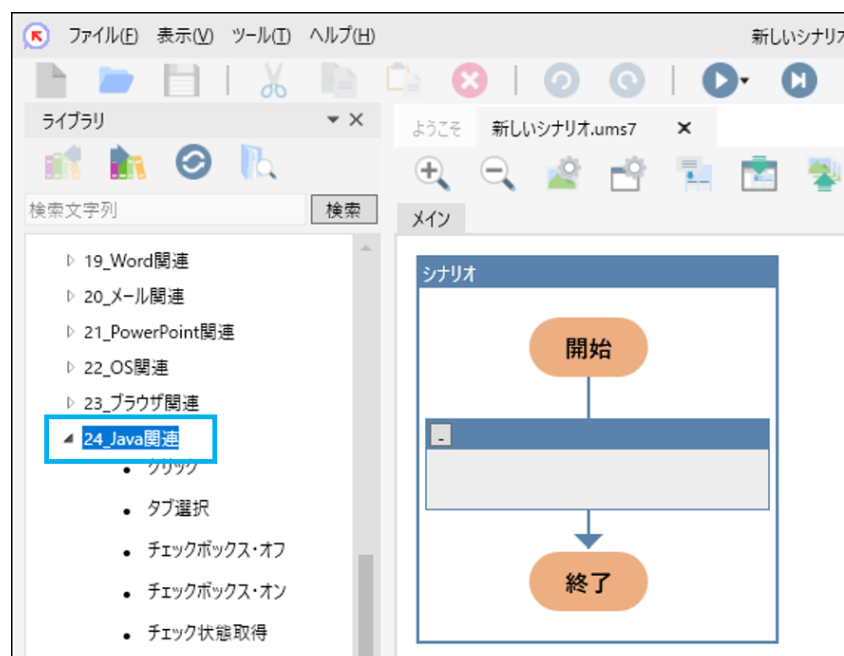


図 3-1 ライブラリタブから「24_Java 関連」を展開

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

ライブラリタブから実行したいライブラリ（今回の例では「値の設定」ライブラリ）を選択し、シナリオに配置します。

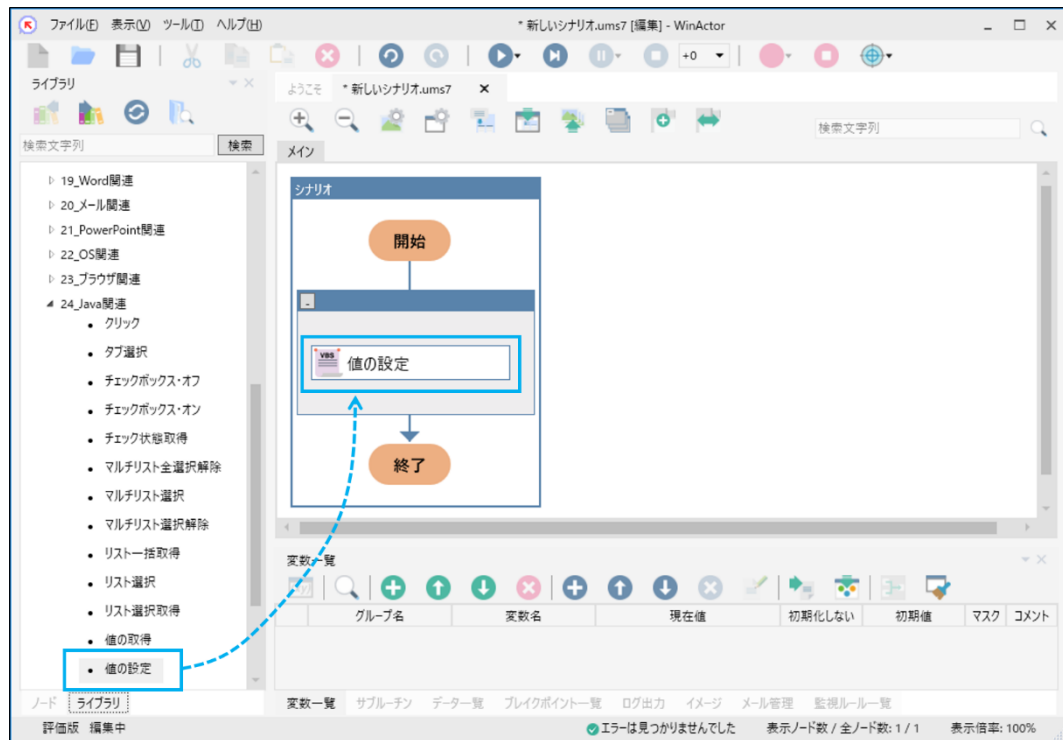


図 3-2 「値の設定」をシナリオに配置

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

② シナリオに配置した「値の設定」をダブルクリックしてプロパティ画面を表示します。

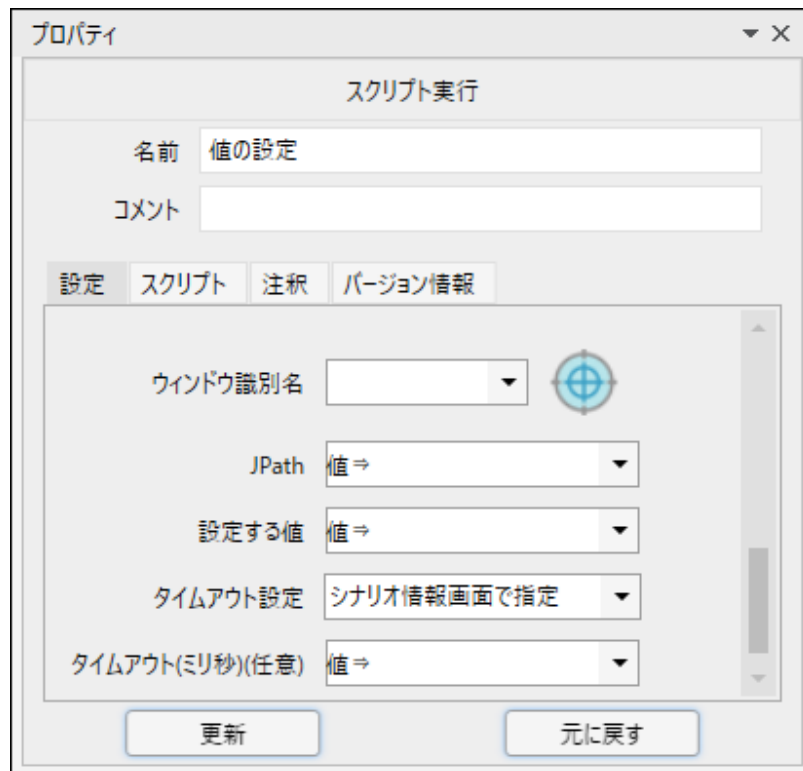


図 3-3 「値の設定」のプロパティ画面

各プロパティ項目を設定し、[更新] ボタンをクリックします。各プロパティ項目の説明を次の表に示します。

表 3-1 「値の設定」ライブラリ・プロパティ項目一覧

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
値の設定	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	「3.1 JPath の取得」で取得した、値を設定する要素の JPath を設定します。
	設定する値	直接入力、または、変数で設定します。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

4. ライブラリ・プロパティの一覧

「24_Java 関連」以下で提供されるライブラリと、各ライブラリのプロパティ項目を示します。

4.1. クリック

Java アプリケーションの要素（ボタンやチェックボックス等）を指定しクリックします。

表 4-1 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
クリック	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	クリックする要素の JPath を設定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.2. チェックボックス・オン

Java アプリケーションの要素（チェックボックス等）を指定し選択状態（チェックオン）にします。

「チェックボックス・オン」内の「チェック状態取得」と「クリック」のプロパティを開いて、それぞれのウィンドウ識別名、JPath に同じ値を設定する必要があります。

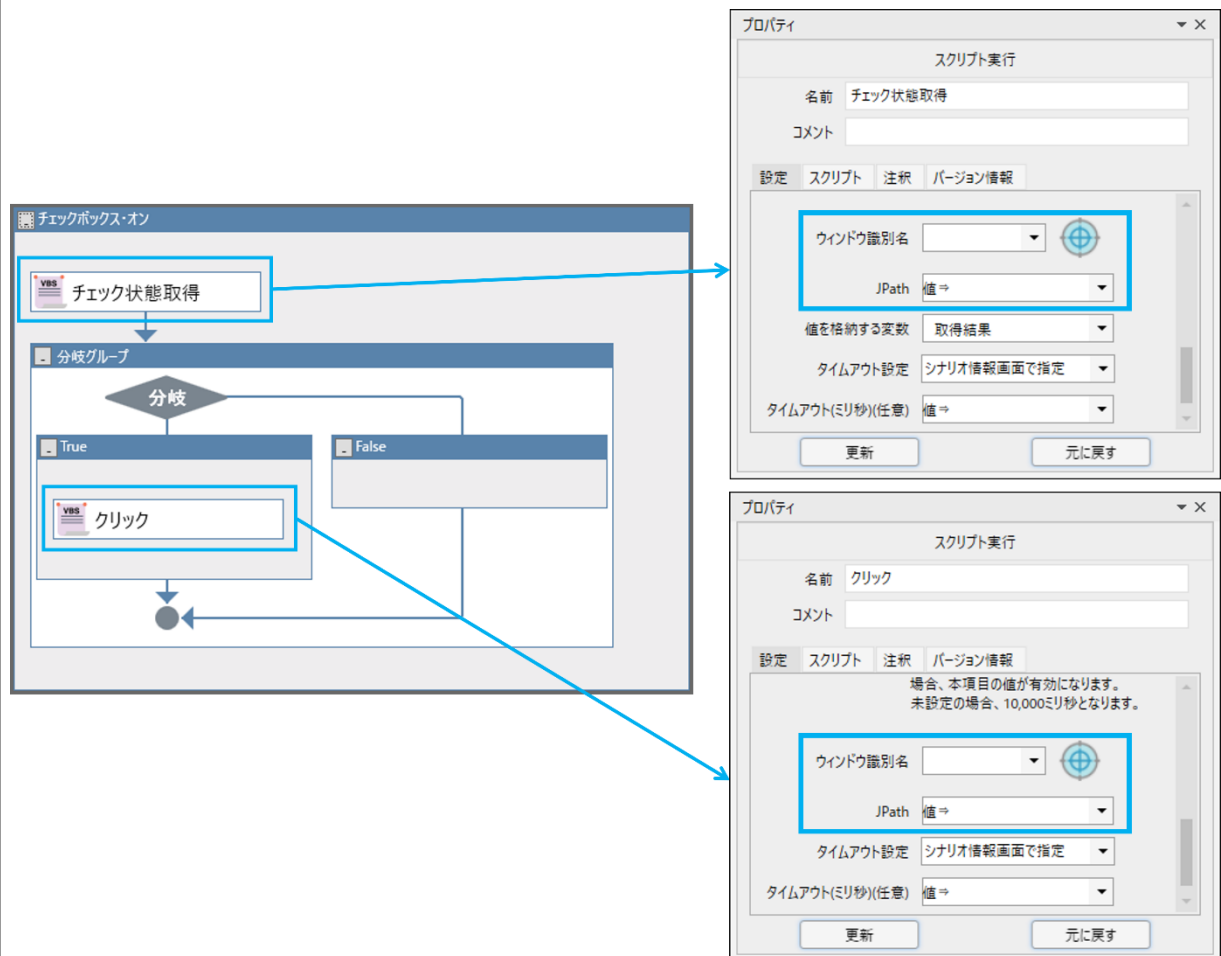


図 4-1 「チェックボックス・オン」プロパティ項目を設定

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

表 4-2 チェック状態取得ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
チェック状態取得	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	クリックする要素の JPath を設定します。
	値を格納する変数	取得した値を格納する変数を指定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

表 4-3 クリックライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
クリック	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	クリックする要素の JPath を設定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.3. チェックボックス・オフ

Java アプリケーションの要素 (チェックボックス等) を指定し未選択状態 (チェックオフ) にします。

表 4-4 チェック状態取得ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
チェック状態取得	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	クリックする要素の JPath を設定します。
	値を格納する変数	取得した値を格納する変数を指定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト (ミリ秒) (任意)」の値が有効になります。
	タイムアウト (ミリ秒) (任意)	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

表 4-5 クリックライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
クリック	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	クリックする要素の JPath を設定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.4. 値の設定

Java アプリケーション内のテキスト要素に値を設定します。

表 4-6 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
値の設定	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	値を設定する要素の JPath を設定します。
	設定する値	直接入力、または、変数で設定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.5. 値の取得

Java アプリケーション内のテキスト要素に設定されている値を取得します。

表 4-7 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
値の取得	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	値を取得する要素の JPath を設定します。
	値を格納する変数	取得した値を格納する変数を指定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.6. リスト選択

Java アプリケーション内のリスト要素から、値を指定して項目を選択します。

表 4-8 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
リスト選択	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	リスト選択する要素の JPath を設定します。
	指定する値の種類	"index"の場合、リスト項目のインデックスを「値」で指定します。 "text"の場合、リスト項目の値を「値」で指定します。
	値	設定する内容は「指定する値の種類」に依存します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.7. マルチリストに関する操作

マルチリスト選択は、下図のようなリスト項目の中から複数項目を選択する操作になります。リストには複数項目選択が可能なリストと不可能なリストが存在します。本アクションは複数項目選択可能なリストを対象とします。

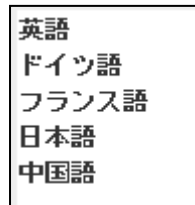


図 4-2 マルチリストの例

下図「操作前の状態」から下図「操作後の状態」に選択状態を変更する場合は、まず「マルチリスト全選択解除」を利用して「ドイツ語」「フランス語」の選択状態をクリアします。次に「マルチリスト選択」を利用して「英語」を選択し、続いて「日本語」を選択するという要領で実施します。

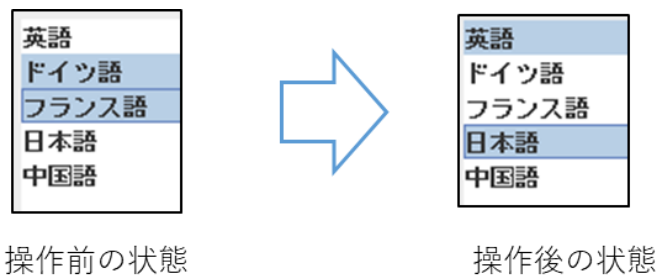


図 4-3 マルチリストの選択状態

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.7.1. マルチリスト選択

Java アプリケーションの要素（複数項目選択が可能なリスト）から、値を指定して項目を選択します。

表 4-9 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
マルチリスト選択	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	リスト選択する要素の JPath を設定します。
	指定する値の種類	"index"または"text"から選択します。 "index"の場合、リスト項目のインデックスを「選択する値」で指定します。 "text"の場合、リスト項目の値を「選択する値」で指定します。
	値	設定する内容は「選択する値の種類」に依存します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.7.2. マルチリスト選択解除

Java アプリケーションの要素（複数項目選択が可能なリスト）から、値を指定して項目の選択解除をします。

表 4-10 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
マルチリスト選択解除	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	リスト選択解除する要素の JPath を設定します。
	指定する値の種類	"index"または"text"から選択します。 "index"の場合、リスト項目のインデックスを「値」で指定します。 "text"の場合、リスト項目の値を「値」で指定します。
	値	設定する内容は「指定する値の種類」に依存します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

		未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。
--	--	-----------------------------

4.7.3. マルチリスト全選択解除

Java アプリケーションの要素（複数項目選択が可能なリスト）から、全ての項目の選択解除をします。

表 4-11 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
マルチリスト全選択解除	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	リスト全選択解除する要素の JPath を設定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.8. チェック状態取得

Java アプリケーションの要素 (ラジオボタン、チェックボックス、トグルボタン) から、選択状態を取得します。

- 選択状態の場合、値を格納する変数に文字列” true” を格納します。
- 未選択状態の場合、値を格納する変数に文字列” false” を格納します。

表 4-12 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
チェック状態取得	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	選択状態を取得する要素の JPath を設定します。
	値を格納する変数	取得した値を格納する変数を指定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.9. 有効無効状態取得

Java アプリケーション内の指定した要素の有効状態を取得します。

- 有効状態（活性）の場合、値を格納する変数に文字列” true” を格納します。
- 無効状態（非活性）の場合、値を格納する変数に文字列” false” を格納します

表 4-13 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
有効無効状態取得	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	有効無効状態を取得する要素の JPath を設定します。
	値を格納する変数	取得した値を格納する変数を指定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.10. リスト選択取得

Java アプリケーションの要素（リスト）から、選択状態にある項目の値を取得します。

表 4-14 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
リスト選択取得	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	リスト選択する要素の JPath を設定します。
	取得する値の種類	"index"または"text"から選択します。 "index"の場合、リスト項目のインデックスを取得します。 "text"の場合、リスト項目の値を取得します。
	値を格納する変数	取得した値を格納する変数を指定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.11. リスト一括取得

Java アプリケーションの要素（リスト）から、全ての項目の値をテキストファイルに出力します。

表 4-15 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
リスト一括取得	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	リスト一括取得する要素の JPath を設定します。
	ファイル名	取得したリストの内容を出力するファイルを絶対パスか相対パスで指定してください。 直接入力、または、変数で指定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.12. タブ選択

Java アプリケーションの要素（タブ）から、値を指定して項目を選択します。

表 4-16 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
タブ選択	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	タブ選択する要素の JPath を設定します。
	指定する値の種類	"index"の場合、タブ項目のインデックスを「値」で指定します。 "text"の場合、タブ項目のタイトルを「値」で指定します。
	値	設定する内容は「指定する値の種類」に依存します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。

WinActor Javaアプリケーション操作シナリオ作成マニュアル

4.13. 表の値取得

Java アプリケーションの要素（テーブル）から、セルの値を取得します。

セルの値とは、Java アプリケーションで表示されている文字列のことを指します。

表 4-17 ライブラリ・プロパティ項目

ライブラリ名	プロパティ項目	説明
表の値取得	ウィンドウ識別名	リストの中から、対象となる Java アプリケーションを選択します。
	ターゲット選択	ボタンをクリックして、対象となる Java アプリケーションを指定します。
	JPath	値を出力するテーブルの要素の JPath を設定します。
	行番号	値を取得するセルの行番号を設定します。
	列番号	値を取得するセルの列番号を設定します。
	値を格納する変数	取得した値を格納する変数を指定します。
	タイムアウト設定	タイムアウト設定の参照先を指定します。 「シナリオ情報画面で指定」、「オプション画面で指定」、「ノードで指定」から選択します。 「シナリオ情報画面で指定」の場合、シナリオ情報画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「オプション画面で指定」の場合、オプション画面で設定されたタイムアウトの設定値が有効になります。 「ノードで指定」の場合、「タイムアウト（ミリ秒）（任意）」の値が有効になります。
	タイムアウト（ミリ秒）（任意）	指定された要素を見つけるまで待機する時間です。 「タイムアウト設定」で「ノードで指定」を選択した場合のみ有効です。 直接入力、または、変数を設定します。 未設定の場合、10,000 ミリ秒の値が採用されます。



NTTアドバンステクノロジー株式会社

Copyright © 2013-2026 NTT, Inc. & NTT ADVANCED TECHNOLOGY CORPORATION

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で複写、複製することは禁じられています。

WA7-B-20260424
